

筒井学区 城番町自治会 はじめての防災訓練

【自分たちの身は自分たちで守ろう】

城番町自治会では、能登半島地震をきっかけに訓練を希望する声があがり、会長の濱島さん、前会長の水谷さん、消防署に勤める谷口さんが3人で企画、令和6年4月にはじめての防災訓練を実施しました。「声掛け（安否確認）」のデモンストレー



（現会長の濱島さん（左）と前会長の水谷さん（右））

ションは雨でできなかったものの、防災紙芝居ではユーモラスな掛け合いで楽しく学び、緊急時あんしん情報シート（※）やシートを入れる防災ボトルなどを配付しました。



訓練をとおして隣近所の方が顔見知りになり、みんながバラバラにもっている防災への意識を共有したいという思いがあります。

（自治会費でヘルメットを購入しました。）

※緊急時あんしん情報シートとは

…自身の身元や日頃の身体情報、連絡すべき家族や知人の方などをシートに記載することで、救急隊などが迅速に情報を把握し医療機関に伝えることができるもの。

旭丘学区

ひがしおおぞねちょう

東大曽根町自治会

とうだい

東大サロン

【鉄道高架下で進取の運営を】

東大曽根町自治会では「東大曽根」から由来する「東大サロン」を主催しています。サロン代表は小林さん。東区社会福祉協議会で働いた現役時代の経験を生か



した運営をしています。

(40年ほど前に建てられ、大切に使用されています。高架下にあるので、雨にもぬれず、使い勝手がよいそうです。)

取材をした日は、紙ヒコーキ作り、お菓子を使ったミニゲーム、食べておしゃべりした後は、ゴムボールを使った誤嚥^{ごえん}予防の体操を行っていました。このサロンではボランティアさんを他地区・他学区から受け入れるなど、間口を広げている点が画期的

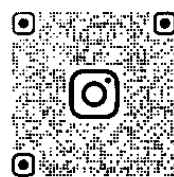


です。実は東大曽根自治会は情報発信にInstagramとホームページを使っているとのこと、こういった進取な気風があるからでしょうか。

(行事の詳細は皆で話し合っていました。)

東大曽根町自治会Instagram

<https://www.instagram.com/higashiozone/>



@HIGASHIOZONE

【地域のつながりが大事】

徳川町自治会では 12 年前からお楽しみ会を行っています。資源回収の収益や町会費を還元することが目的ですが、850 世帯の大きな地域で、人と人とのつなが



(徳川町自治会の役員のみなさん)

りを大事にしたいとの思いがあります。そこで老若男女楽しめるような行事を工夫しています。

運営スタッフは、役員と子ども会(※)のみなさんのほか、「サポーターさん」というボランティアを集めているそうです。人員補充

の方法として、組織に結び付けず、行事のたびに集める、というのはとても工夫されています。



(高齢者から子どもまで盛り上がりました)

今年は旭丘小学校の体育館を借り、クラシック音楽や大道芸、役員によるビンゴゲームを行いました。毎年 12 月には餅つき大会も行うそうですが、自治会長の水野さ

んは「お餅のつき方など、次世代につなげられれば」と熱く語っておられました。

※子ども会…遊びや仲間づくり、異年齢交流を通して、子どもたちの自主性や社会性を育むことを目指して活動する組織。

明倫学区

古出来町自治会 防犯カメラの点検活動

【事件・事故の解決に一役買ってます】



おんだ
(会長の恩田さん)

古出来町自治会では、まちの安全を守るため、防犯カメラの設置を進めてきました。実際に、ひったくりや交通事故、空き巣被害などが起きた際には、警察から情報提供を求められ、解決の手がかりとなりました。

防犯カメラの映像は数日保存したあと画像が更新され消えるため、警察に提供する際には、注意する必要があります。また、機器の中には映像が映っていなかったり、

途切れていたり故障していることがあるため、会長の恩田さんが業者と定期的に点検しています。防犯カメラを維持・管理することは、地域の方はもちろん、商店を営む人やまちを行き来する人を守ることになるので大切な活動です。



(掲示することも防犯になります。)

明倫学区 カラフル 折り紙

【 楽しく、かわいく、エコ をモットーに】

明倫コミュニティセンターでは令和5年11月から折り紙サロンを開いています。

担当の伊藤静香さん(以下、静香さん)は、「楽しく、かわいく、エコ」というスタイルを



大切にしており、豪華さや細かさよりも「小学生でも折れる作品」の中から参加者みんなが次の作品を決めるようにしています。出来上がったものに眼を描き、台紙に貼るなどして「楽しく、かわいい」世界をつくっていきます。この台紙は、不要なカレンダーや菓子箱などの廃材を利用する「エコ」を重視した取り組みです。

(静香さんと作品。教室やコミセンに飾り付けて楽しい雰囲気に)

参加者の方々は「完成した作品を飾るのが嬉しくて通っています」「脳トレにもなって良いです」とおっしゃっていました。

折り紙を通して教室全体に「楽しい」の一体感が生まれていました。



(和気あいあいとすすみます)

矢田学区

だいこうみなみ

大幸南二丁目自治会 秋祭りは実行委員会形式で

【「一緒にやらない？」って一声かける】

大幸南二丁目自治会は、これまでずっと行ってきた秋祭りをコロナ禍で中断していました。住民の高齢化、担い手不足もあり令和5年から再開するか悩みました。前会長の細川さんは、「負担だからやりたくないけど、やめたらやめたままになる。それってまちとしてよくない気がする」。そこで「実行委員募集」のチラシを配布し、声掛け



しがくかん

(至学館高校吹奏楽部の皆さんと秋祭り実行委員)

をしたところ、5名が集まりました。

役員に新しく有志が加わることに
よって、発想やツールが広がりました。



(前会長の細川さん(左)と現会長の川添さん(右))

令和6年は実行委員が10名に
増え、同じ町内の至学館高校から
吹奏楽部を招いて盛り上がりました。
負担を前進に変えられる建設的で
前向きなコミュニティです。

砂田橋学区

やだがわ 矢田川パークハウス自治会(A,B,C,D 棟)

ふれあいネットワーク活動

【「安否確認」が「ふれあい事業」に】

矢田川パークハウス(A・B・C・D 棟)では、高齢者への電話訪問をボランティアで行っています。コロナ禍を経て高齢者の活力低下を心配する声が住民からあったため、この地区からはじめました。最初は「相手が電話にできれば目的達成」でした。し



かし意外にも「もっと話したい」人がいることがわかり「ふれあい事業」に変わっていきました。

(ボランティアは責任を負わず、おしゃべりのみが目的。だから続けられます。)



元気かどうかは声色でわかるそうで、困っていれば民生委員(※)につなぎます。なかには「地域の給食会やお祭りに行かないけれど話はしたい」という高齢者もいます。高齢化がさらに進む今後は、ボランティアを広げていきたいとおっしゃっていました。

(リーダーの^{すおう}周防さん)

※ 民生委員…福祉に関する様々な困りごとに対して、地域の身近な相談役として活動するボランティア。